

[機構について](#) > [情報提供活動](#) > [動画で見る企業事例「企業未来！チャレンジ21」](#) > [2003年放送分](#) > 9月6日放送分 北海道発 ベンチャー企業～産学連携で未来の病気検査～

9月6日放送分 北海道発 ベンチャー企業～産学連携で未来の病気検査～

9月6日(TX・TVO・TSC)

7日(TVA・TVH・OX・TVQ・RCC・TVQ・OTV)

8日(BSJ)

北海道の(株)ジェネティックラボ(資本金3億900万円、従業員19名)は『遺伝子情報に基づいた新薬開発』領域の創薬受託を事業の柱とする会社。既存のDNAチップと違って、一度に多量のサンプルの遺伝子発現を正確に解析できる遺伝子解析装置は当社のオリジナル技術の結晶。この装置を使ってガン予防、治療を行うプロジェクトを展開している。3年前、国内初の国立大学発バイオベンチャーとして設立された同社の創業の秘密を探る。

北海道発 ベンチャー企業 ～産学連携で未来の病気検査～

[視聴覚教材No. TV15-23](#)

[動画配信中\(新規ウィンドウ\)](#)



北海道にやってきた志垣さん。今日は北海道大学の先生たちが中心となって立ち上げたベンチャー企業を訪ねる。

こちらが(株)ジェネティックラボの西村社長。西村社長は農学博士でもある。





例えばガンの場合、遺伝子を調べると手術、放射線、投薬といった治療法の中でどれが一番よいかを予測できるくらいまでバイオの分野では研究が進んでいる。そこで、この会社では遺伝子を利用した新しい診断方法の開発を行っている。

北海道大学大学院の加藤教授は、「これまで外科手術をしてガンを摘出しても、再発するケースが多くあった。その反省から共同研究を進めている。これはきっと患者さんの役に立つ。」と語る。



5,000人の患者から提供されたガンのサンプル。これは民間の企業だけでは不可能なこと。遺伝子検査の開発は大学病院と共同で研究しているからこそ可能になった。遺伝子検査とはどんなものかを見せていただく。



この紙にある青い点々に遺伝子の配列がのっている。この情報を取り出して貼り付けたのがDNAアレイ。

DNAアレイを調べた結果が、画像で出てくる。光の強さで、使っている遺伝子が分か



る。



ガラスタイプの診断チップに代表的な80個の遺伝子をのせて診断する。

前の規制緩和で国立大学の先生が民間企業に籍を置くことが許可され、吉木教授は初めてそれを実行した。



「大学のシーズを会社で使うことができる。自分はその間を繋いでおり、そういう役目がこれからも必要だ。」と吉木教授。

吉木教授へのアプローチは他からもあった。西村社長を選んだのは、社長が誠実

で、農学博士でもあり、しっかりとした仕事を
をしていることが分かったからだという。



「患者さんのために新しい診断技術を作りたいという人が集まり、結果的に産学連携だったというのが私達の姿。産学連携という形をだけ作っても、こういうことはできなかった。」と最後に西村社長は語った。

POINT: 大学側と企業側の両方の利益となる「モノ」が不可欠



[ひとつ上の階層へ](#)

[利用規約](#) [法的事項](#) [プライバシーポリシー](#)

Copyright©2007 Organization for Small & Medium Enterprises and Regional Innovation, JAPAN